

はじめに 遺跡はタイムカプセル… 大昔の暮らしを教えてくれる

● 遺跡って？

遺跡というのは、かつて人が生活していた場所のことです。

遺跡には、そこで使われたり作られていた道具、ほられた穴のあと、たき火のあとなどが残されています。これらを注意深く調べることで、いつごろ、どんな暮らしがおこなわれていたかがわかってくるのです。

ただ一カ所の遺跡だけでなく、近くの遺跡、はなれた遺跡、海外の遺跡などと比べることで、その時の暮らしがよりくわしくわかっていき、どのように人や文化が移り、広がっていったかもわかってきます。

多くの遺跡は、かつてそこで暮らしていた人のあとを、土の中に包みこんでいます。いいかたを変えれば、大昔の人の「伝言」を土の中にねむらせ続けてきたものが遺跡です。

遺跡は「タイムカプセル」なのです。

● 遺跡を探す

遺跡の多くは土の中にあるものだと思います。それでは、どうやって見つけられるのでしょうか？

まず、大昔の人が好んでいた、水の便がよく、小高い場所に見当をつけます。川ぞいの高台（段丘など）が多いようです（右ページ）。そして、その場所の地面を注意深く見つめて、土器のかけらや石器が落ちていないかを探します。

遺跡を見つけるには勉強や経験が必要ですが、研究者の先生じゃなくても見つけることができます。

十勝でも多くの遺跡が、考古学の好きなふつうの人によって見つけられています。八千代遺跡（帯広市）は高校生が発見し、若葉の森遺跡・暁遺跡（帯広市）は中学生が発見しているのです。

また、とち帯広空港周辺には旧石器時代の遺跡がいくつも見つかっていますが、これらは、魚釣りの好きなおじさんが、釣りに行く時に見つけたものです。

十勝では、千カ所以上の遺跡が確認されています。

もし遺跡を見つけたら、「いつ、どこで見つけたか」を記録しておきましょう。そして、博物館や各市町村の教育委員会に連絡しましょう。

● 遺跡をほる（発掘）

遺跡は「文化財保護法」という法律で、「そのまま

の状態^{じょうたい}で未来に残すこと」と決められています。一度ほり出してしまうと、二度ともとの状態にもとせないので、あとになって新しい技術^{ぎじゆつ}ができて、「あれが残っていれば、すごいことがわかったのに…」とくやんでも、どうしようもないのです。

ですから、発掘調査（ほって調べること）は、研究のためにどうしても必要な時、あるいは、道路や建物をつくるために遺跡がこわされてしまう時にだけ、おこなわれます。

● しんちょうにおこなわれる発掘調査

発掘調査は、当然、しんちょうに、しんちょうにおこなわれます。

どんなものが、どの場所のどの深さで、どんな状態^{じょうたい}でどの地層^{ちそう}に入っていたのか。

また、ものだけでなく、ものがあつたあと（柱のあとなど）、ほつた穴のあと（竪穴式住居やお墓など）、何かをしたあと（たき火のあとなど）も大切です。

これらを見落とさないように、あとから同じ遺跡をつくり直せるくらい正確に記録しながら、発掘調査はおこなわれるのです。

● 遺跡の年代を知る

見つけた遺跡が、いつのものだったのかは、もの・地層・化学分析、によって調べます。

遺跡から見つかる「もの」やその特ちょうは、年代によってちががあります。例えば、土器が見つければ、その遺跡は縄文時代からあとだということになります。そして、土器の形や文様（もよう）の特ちょう、石器の形や作り方などが見るポイントとなります。

「地層」というのは、基本的に古いものほど下にあり（→p20）。どの地層から見つかったかによって、その古さがわかっていきます。また、広い範囲に降り積もり、ほかの地層と区別がつきやすい火山灰の地層は、年代を調べるいいめやすになります。（→p82）

「化学分析」をおこなうと、何年前のものなのかを数字で出すことができます。例えば¹⁴C（放射性炭素）というものは、生き物が死ぬとある一定の割合で少なくなっていく。これをいわば「砂時計の砂」がわりにして、いつごろ死んだのか（いつごろ生きていたのか）を調べるわけです。

第1章 十勝の平野や川がどうなっているか

第2章 先史時代と川

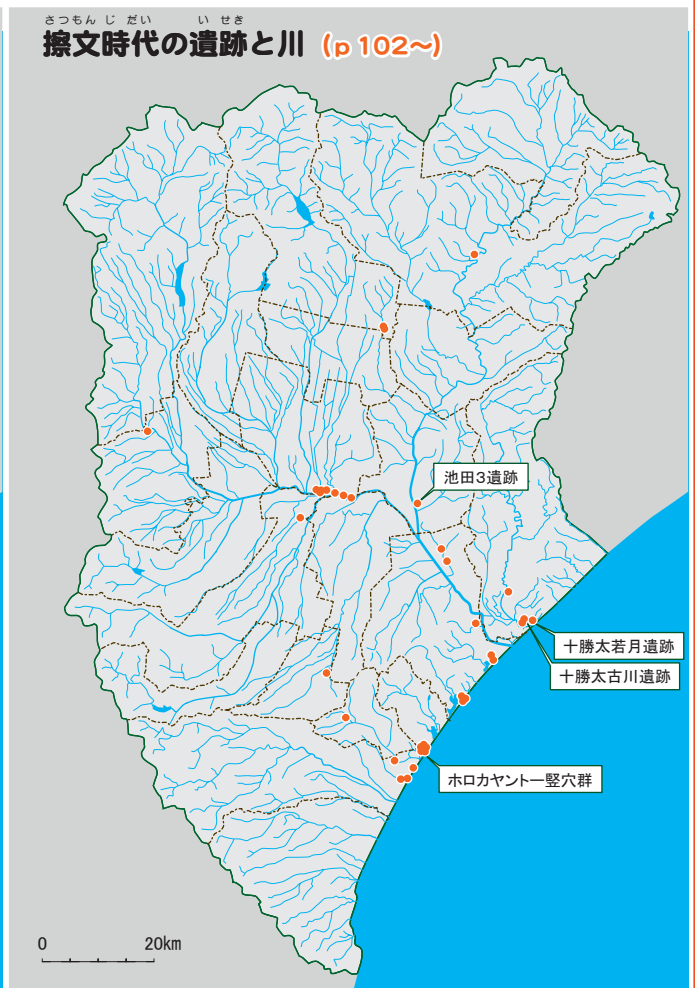
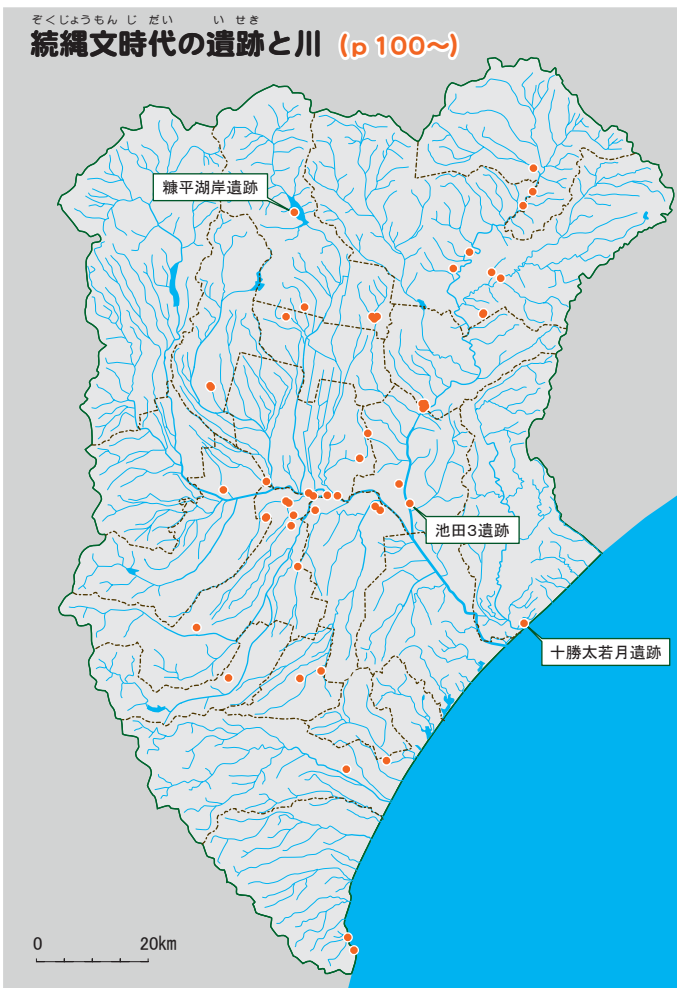
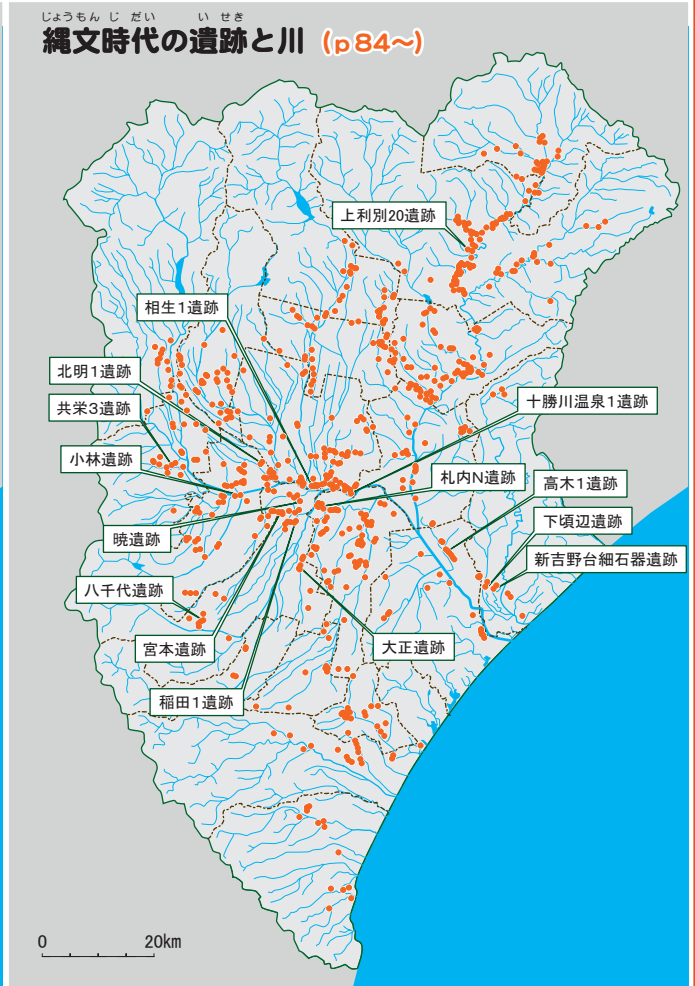
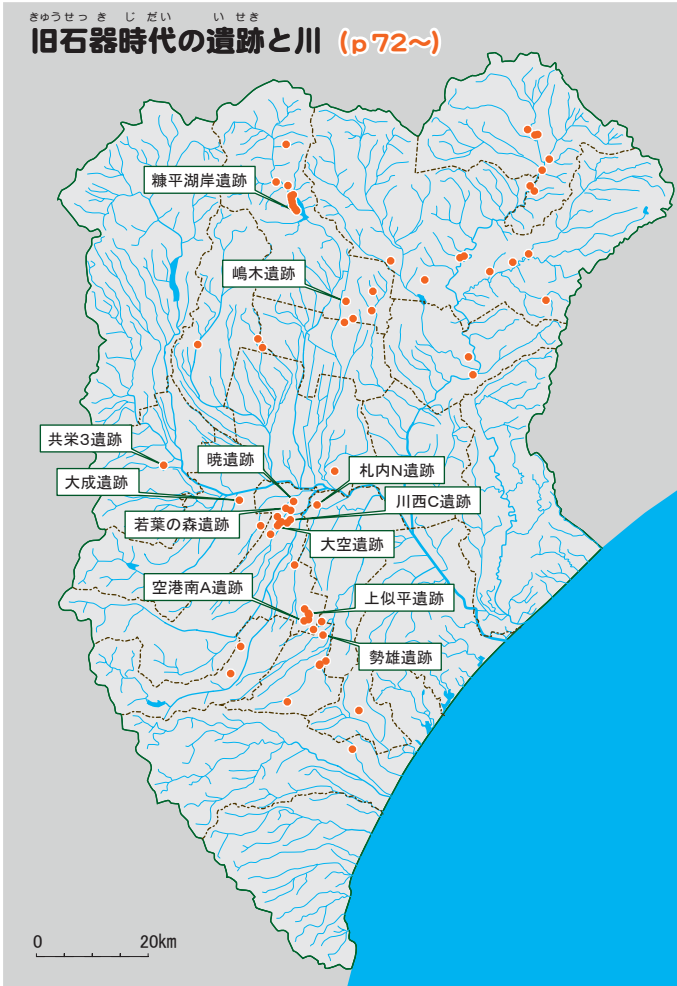
第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん

注：1つの遺跡からいろいろな時代の暮らしのあとが見つかることがよくあります。この図でも、同じ遺跡がちがう時代の図にのっています。なお、遺跡名は、この本で各時代の遺跡例としてあげたもののうちおもなものをのせています。また、川の流れは今のもので、各時代の時とは多少ちがっています。(帯広百年記念館埋蔵文化財センター資料より)